



第4回年金数理研修が行われました！

4月23日～5月4日にかけて、日本の国立社会保障・人口問題研究所から佐藤講師および大泉講師がモンゴルに訪れ、第四回目となる年金数理研修を実施しました。同研修の目的は、モンゴルの公務員に、年金制度を科学的な方法かつ長期的な観点から立案する能力を身に付けてもらうことです。



研修参加者へアドバイスをする大泉講師

始めの一週間では、大泉講師より、人口動態についての講義と実習が行われました。まずは人口動態に関する理論

や日本の手法の説明を理解して、それを元に、モンゴルにおける死亡率や出生率、人々の国際移動動向と今後の予測を研修参加者たちは議論しました。そのうえで、モンゴルの既存のデータを利用して、モンゴルにおける50年後の人口の推計に挑戦しました。



修了証授与の様子

次の週には、佐藤講師による年金の将来見通しにかかる講義と実習が行われました。モンゴルのデータに基づき、50年後のモンゴルの年金について、収支がどうなっているのか見通すことを目的としています。加入者・受給者一人ひとりの年金の情報を有するものの、将来の収支見通しを作成するために十分な情報がないモンゴルの



佐藤講師の講義の様子

実態に合わせたモデルを作成することが必要なのです。研修参加者は将来の物価や賃金上昇をどのように見込んでいくのか整理した上で、将来の給付額総額、保険料収入総額がどうなっていくのか、モンゴルのデータに基づき、推計に取り組みました。



修了式の様子

二週間という長い研修でしたが、最後まで頑張りぬいた研修参加者の皆様、本当にお疲れ様でした！そして、今後もモンゴルの将来のより良い年金制度構築のため、一緒に協力していきましょう。

中山専門家の着任



ウィークリーミーティングで説明を行う中山専門員

4月よりSINRAIプロジェクトのメンバーになりました中山雄介（なかやまゆうすけ）です。

まだ赴任して間もないです

が、皆様から当プロジェクトへの信頼と期待の大きさを日々感じております。初めての海外での生活であるため、実は多少の不安な気持ちもあったのですがモンゴルの方は皆とても親切であり、安心して楽しく過ごすことができております。

モンゴルの皆様と直接話ができるよう、早くモンゴル語を話せるようになりたいと思っています。皆様の期待に応えられるように日本での経験を生かして、精一杯頑張ります。

連載：草原の国の社会保障（第 23 話） “現在価値”

皆さま、こんにちは。長期保険である年金を理解するため、今回は、「現在価値」について、より詳しく説明します。

1990 年代を思い出してください。その時の食パンの値段はいくらだったのでしょうか。そして今、いくらで食パンは買えますか。もし、食パンの質が 1990 年代と変わらないと仮定すると、食パンの量は変わらないのに、値段だけが高くなっているのではないかと思います。

「現在価値」とは、1990 年代の食パンの値段と現在のそれが同じ価値であるとして、当時のモノの値段を現在の値段で表記することをいいます。そして、「現在価値」という考えは、年金制度を運営する際、とても重要になってくるのです。

日本の年金制度は、学生も無職の人も全員が加入していることを説明しました。学生や無職の人は日本年金機構に申請すれば、保険料の納付を猶予され、10 年以内に「追納」すれば、過去にさかのぼって、納付したことになることも紹介しましたよね。

そこで、「追納」する保険料額がどのように計算されているのかというと、10 年前の保険料額を、今の「現在価値」に計算し直して、支払ってもらっているのです。例えば、10 年前の保険料額が 10,000MNT として、この間にすべてのモノやサービスの価格が 15% 上昇していれば、10 年前の保険料を今追納する者は、現在価値に計算し直した 11,500MNT を納付しなければなりません。10 年前の保険料と同等の価値を、今、支払うのですから、当然ですね。具体的に言えば、10,000MNT を銀行に預け、10 年後に 15% の利子がついた 11,500MNT のうち、10,000MNT を当時の保険料として支払うことによって、1,500MNT 得をすることになるのです。そうすると、今保険料を支払っている人が、追納による現在価値の不足分を負担することとなり、不公平が生じてしまいます。

年金制度を運営する場合は必ず「現在価値」を意識することが大切です。時間による様々な影響を勘案していくことが必要なのです。

JICA チーフアドバイザー 山下 護

Mongolian Express 社での講義

4 月 27 日、Mongolian Express 社からの依頼を受け、社会保険庁と SINRAI プロジェクト合同で社会保険の勉強会を同社の社員向けに行いました。同社は創業 19 年。従業員 100 人のモンゴルの運送会社です。



勉強会の様子

山下チーフアドバイザーからモンゴルの高齢化と積立金の活用、そして、中間所得層の創出の重要性について、日本を例に説明した後、社会保険庁のビャンバドラムさんよりモンゴル社会保険の特徴を説明しました。皆、自分の将来のことを真剣に考え、意見交換も大変活発でした。こうした社会保険に関する情報を提供する機会を用意していたエンフバト社長に改めて感謝を申し上げます。

中山専門家のウランバートル市ソギノハイルハン区社会保険事務所訪問



事務所で話を聞く一行の様子

4 月 18 日、中山専門家はソギノハイルハン区社会保険事務所とバヤンホショー地区分室を視察しました。

ジャルガルサイハン所長とバヤルサイハン室長から、年金受給者の年金請求から受給決定までの事務や、年金加入している会社からの届出について説明を受けました。この視察で得た貴重な情報は、今後のプロジェクト活動に役立てていきたいと思えます。

また、本視察には、プレブツェレン社会保険庁顧問とゲレルマー課長にも同行いただきました。感謝を申し上げます。



室長からの説明を聞いているところ

SINRAI プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル社会保険庁内

6 階 602 号室 電話 (FAX) 番号：(+976)-11-325125

公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл

ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>

